一人ひとりの思いをカタチに
食農立国
JAいわて中央

ほっぷ
すてっぷ

じゃJAんぷ

2023
3
Vol.289

特集Ⅰ

3月10日は「農山漁村女性の日」！
地域で輝く女性たち

JAいわて中央

地元盛岡で持続可能な農業を

〜〝食農立国JAいわて中央〟を支える生産者の想いをつなぐコーナー〜

1

地域に伝わる農業を在来作物生産への挑戦

今年で就農12年目になる盛岡市羽場の田村和大さん。うるち米品種「岩手亀の尾一号」や大豆品種「山白玉」、盛岡ネギなど、岩手や盛岡に古くから伝わる在来作物の栽培と育種に励む若手生産者だ。

IT系会社で技術開発に携わっていた和大さん。仕事の多忙さから過労で倒れてしまった時、「体に良いものを」と家族が食べさせてくれた有機野菜のおいしさや休養で地元盛岡を訪れるなかで農業を志すように。しかし、本格的に農業をスタートしようとした矢先、東日

3

2

1.昨年、初収穫を迎えた、杏子の一種である「八助梅」。この時期、和大さんは冬の剪定作業を丁寧に行っていく
2.盛岡の在来作物である「雉頭(まじがしら)大根」。雉の頭のような赤色が特徴で、11月〜3月にかけて収穫する
3.盛岡市の河北地区が始まりとされる「盛岡ネギ」。和大さんは、実らせたネギ坊主を株ごと収穫して天日干しを行い、そこから中の黒い種を手作業で採っていき、採種している
4.「サステナアワード」への応募に向け「風土に繋ぐ種、次世代のために」というタイトルで動画を作成した和大さんと記一さん。動画は田村種農場の公式YouTubeチャンネル「田村種農場の農業日記」からも視聴できる

本大震災が起こった。注文していた種や資材が調達できない状況で、「育種と栽培を一貫してできれば、周りの影響に左右されずに農業を継続できるのではないか」と感じた和大さん。そこで、以前から調べていた在来作物の育種・栽培に取り組むことを決意し、県内の産直などを歩いて情報収集しながら栽培を始めた。

農薬や肥料を使用しない自然な形での栽培にもこだわっている和大さん。手を施さずに同じ栽培条件で生育を見守るなかで「土壌の本質を知ることができた」と成果を話しながら、事例の少ない在来作物の生産と農業経営との両立で苦労も多かったと語る。「農業普及員の方がよく圃場に来て下さり、きちんと生計が成り立つまで熱心に面倒を見て下さったのがありがたかった」と和大さんは話す。

動画で「農業」を伝えてサステナアワード受賞

就農当初からSNSを通じた農業発信に力を入れ、一昨年からは動画編集を得意としていた義理の弟の中山記一さんを誘ってYouTubeでの動画配信も開始。記一さんは「東北に住むのは初めて。雪の中での農作業風景に魅力を感じ、撮影にも気を配っている」と思いを話す。昨年、農林水産省などが主催する「サステナアワード2022」に制作動画を応募し、全79作品中で、生物多様性保全賞を受賞したお二人。「取り組みに対して評価いただき本当に嬉しかった。今後の糧になると思う」と笑顔で受賞を喜ぶ。

これまでを振り返り「在来作物に関わるなかでこの土地の歴史も知ることができた。毎年環境も変わりますが、今はその変化も楽しめるようになりましたね」と微笑む和大さん。記一さんも「農業の知識も増え、見聞きしたことが別の場面で活きることがあって毎日面白いです」とやりがいを話す。今後について「作物の変化や四季の移ろい、それに関する人の携わりを農業で発信していき、そのつなぎ手として頑張りたい」と農業の将来に期待を寄せる和大さんだった。

4

今月の表紙

田村（たむら） 和大（かずひろ） さん（42）・中山（なかやま） 記一（のりかず） さん（表紙右・33）

盛岡市羽場で、盛岡ネギや雑頭（まじがしら）大根など、岩手・盛岡の在来作物の育種や生産に取り組む専業農家。義理の弟である中山さんは、田村さんが代表を務める「田村種農場」のコンテンツ制作室で農作業の様子などを撮影・編集し、YouTubeで発信している

目次 CONTENTS

未来へつなぐ食農立国 …… 2
田村 和大さん・中山 記一さん（盛岡市）

特集Ⅰ …… 4
3月10日は「農山漁村女性の日」！
地域で輝く女性たち

特集Ⅱ …… 8
第47回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画岩手県コンクール

営農情報 …… 10
水稲の播種作業について 他

ファーマーズマーケット通信 vol.06 … 12

サン・フレッシュ都南さ おでってくなんせ！
まちのスマイル …… 13

インフォメーション …… 14
販売受付中！まごころギュ～ッとセット春 他

今月のレシピ …… 16
ウルイのサラダ

特集Ⅰ

3月10日は農山漁村女性の日！

地域で輝く女性たち

農林水産省では、農林水産業の発展に向け、女性が重要な担い手としてより一層能力を発揮していくことを促進するために、「農山漁村女性の3つの能力（知恵、技、経験）をトータル（10）に発揮してほしい」という願いを込め毎年3月10日を「農山漁村女性の日」と設定しています。今月の特集Ⅰでは、ＪＡ管内で活躍する女性農業者をご紹介します。

紫波町・船久保　工藤（くどう）姫子（ひめこ）さん

担い手継承も地域でつないで自分のペースで農業を

リンゴ農家の両親のもとで約30年前に就農し、現在もサンふじやはるかなど計12品種を家族で栽培している工藤姫子さん。就農当時は4人の子どもの子育てに加え、父は出稼ぎで家を空けることも多かったため苦労もあったといいます。姫子さんは「今思えば、ゆっくりと時間が流れる農村で家族のサポートがあっての子育てだったので、頑張れたのだと思います」と振り返ります。

リンゴの発送なども行う姫子さんが大切にしているのが、消費者との交流。その年の栽培経過などをハガキに丁寧に記して毎年欠かさず連絡しているといい、「『今年のリンゴもおいしかった』などとお手紙を頂くことも多く、とても励みになります」とやりがいを話します。

9年前から紫波町の農業委員として農地の貸し借りや売買など、地域の相談役としても活動している姫子さん。「農地を手放す人が増えている一方で、次の担い手不足が課題」と話しながら「地域に新しく参入して一緒に頑張ってくれる方には、安定した農業経営をしてもらいたい。そのためにも将来の営農計画をしっかりと聞き、できるだけ地域全体でサポートしていきたい」と将来を見据えています。

「農業を継続することは人の基礎となる食料、そして命を守ることにもつながる」と語りながら「時には夜仕事が続くこともありますが、農閑期もあるのが農業ですから」と話す姫子さん。「自分のペースでできるのが農業の良さだと思うので、私自身も適度に休憩しながら、健康第一で頑張っていきたいです」と笑顔を見せています。

姫子さんは贈答用や家庭用リンゴの販売以外にも、ジュースやゼリー、農家仲間らとともにジャムなどの加工品生産も行っています

盛岡市・黒川 藤村（ふじむら） 有希（ゆき）さん

家族との時間も大切に農業を頑張っていきたい

盛岡市黒川で繁殖牛11頭とその子牛を飼養管理している藤村家。就農して13年になる次女の藤村有希さんは、高校卒業後、県立農業大学校に進学。人工授精師や受精卵移植師の資格取得など、3年間で広く知識を学んだといい、「豊富な知識で教えて下さる先生を見て、こんな風になれたらかっこいいなと思いました」と充実した学生生活を振り返ります。

現在、有希さんが担当するのは牛の人工授精と分娩の介助。特に母牛の分娩は繁殖農家にとって要ともいえ、藤村家では分娩事故をできるだけ防ぐため必ず分娩に立ち会うといい、「母牛の頑張りをサポートしながら、母牛も子牛も負担が少ないように介助を心掛けています」と力強く語ります。また、飼料価格などが高騰するなか、経費削減や作業の省力化などを家族で日々相談していると話す有希さん。「今は3人の子どもの子育てが中心になっていますが、この時間が将来を考える良い機会になっています。良い方法を引き続き探していきたいです」と先を見据えます。

分娩が近い母牛は特によく観察して、様子を共有しながら飼育しているという有希さんと母の美枝子さん

幼い頃から牛飼いの両親を見て育ってきた有希さん。特に、勤めに出ていた父に代わって熱心に牛の世話をしていた母・美枝子さんの姿が今でも印象に残っているといい、「母は嫁いで初めて畜産に携わったにも関わらず『畜産は私にとって天職』と話していました。家のこともこなしながら一生懸命に働いていた母には、尊敬の気持ちしかありません」と思いを語ります。

今後について「ある程度の頭数を確保しながら、牛にとって負担にならない環境づくりを目指したい」と意気込む有希さん。「まだまだ努力しなければいけないことは多いですが、家族との時間も大切にしながら頑張っていきたいです」と笑顔を見せています。

盛岡市・猪去 清水邉（しみずべ） 未来（みき）さん

「少しでも多くおいしいトマトを作りたい」と話す未来さんは、日々の管理を丁寧にこなしていきます

日々の経験をプラスに より良い結果を目指して

トマトの生産・販売を行う盛岡市猪去の㈱いわて若江農園で、2年前に雇用就農した清水邉未来さん。農業の現場で日々知識を深めながら、代表の若江俊英さんや一緒に働く仲間とともにトマトの栽培管理に励んでいます。

花巻市出身で、非農家の家庭で育った未来さんが農業に興味を持ったのは、家庭菜園をしていた祖母の存在がきっかけでした。「祖母は農作業が好きで、毎日楽しそうに手入れをしていた姿が印象に残っています」と話す未来さん。それから徐々に農業を志すようになり、地元の農業高校を卒業後、県立農業大学校に進学。2年間在籍した野菜経営科では、栽培実習や農家の元での研修などを通じて専門知識を学んだといい、未来さんは「同級生にも恵まれ、相談できる仲間がいたのが心強かった。農業大学校に通って、改めて『農業って楽しいな』と感じましたね」と振り返ります。

卒業を控え、将来の進路を考えていた時に企業紹介イベントで出会ったのが、現在勤める同社。卒業論文の制作で「ミニトマト作業の省力化」をテーマに調べていたこともあり経営内容に興味があった未来さんは、インターンとして学んだ後、就農を決意しました。現在は、トマトの全体的な栽培管理や出荷作業、他従業員への作業指示などを行っている未来さん。同社ではハウス1棟ずつに担当者を配置して週に一度、生育調査を行い、それを担当者同士で分析することで品質向上を目指しています。未来さんは「任せてもらうことにまだ不安もありますが、日々の管理を経験するうちに、トマト栽培で大事な水管理の具合や作物の状態とその後の変化予測などが分かるようになってきました」とやりがいを話します。

憧れていた農業で、今では生産者の一人として意欲的に生産に取り組む未来さん。今後の目標について「去年の自分、去年の結果よりも良くしていきたい。身近なことからコツコツと頑張っていきたいです」と意気込みを見せています。

紫波町 **しわうーまん**さん

「食育」や「花育」で地産地消に特化した農業普及を

紫波町でリンゴやブドウ、花きなどを栽培する女性生産者で結成した「しわうーまん」は、農業の魅力を発信することを目的に「花育」や「食育」の活動に取り組んでいるグループです。

結成前、前身となる地域の研究グループに所属していた代表のOさん。その活動のなかで、出荷できない花の活用法として花育と出会います。3年間の活動を終え、「繋がりを継続し、花育や食育にも挑戦したい」と感じたOさんは、メンバーのTさんとYさん、花き生産者として交流のあったTさんを誘い、平成27年に「しわうーまん」を発足。4人全員が紫波町出身ということもあり、そこから町内を中心とした活動が始まりました。

これまで、花を有効活用したフラワーアレジメントをはじめ、紫波町の食材を使った「お米研ぎ体験」や「ひっつみ作り」など、子どもたちに自ら体験してもらうことで農業の魅力を発信してきた同グループ。「農作業の悩みや地域の話題をそれぞれ持ち寄って、活動のアイディアにしている」と話すOさんは、紫波町が取り組む「食育パートナー」に昨年グループとして登録し「さらに活動の幅を広げたい」と期待を込めます。

生産者の一人として日々作業に励むメンバー。Tさんは「農業は100%満足のいくことはありませんが、学びながら高めていけるのが楽しい」と話し、Tさんも「自然相手で大変な面もあるけれど、手を掛けただけ反応があるのが嬉しい」とやりがいを話します。今後についてOさんは「花育や食育を通じた経験が子どもたちの記憶に残り、将来思い出したり地元の農業に関わるきっかけになってくれたら嬉しい。そのためにも長く活動していきたいです」と意気込みを見せています。

2月下旬、町などが主催する「おにぎり教室」の講師として、中身が見える「食育鍋」を使って、お米の炊き方を紹介したメンバーの皆さん

特集Ⅱ

第47回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画 岩手県コンクール

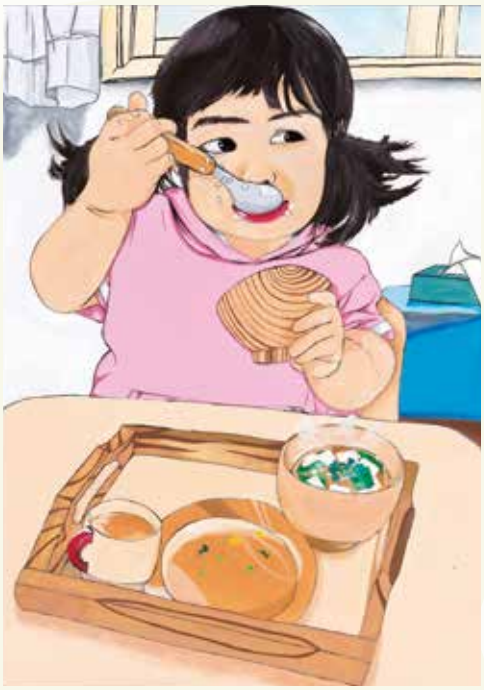
ＪＡグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として開かれている「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールは、次世代を担う子どもたちに、お米やご飯食、日本の食卓と国土を豊かに作り上げてきた稲作をはじめとする農業についての学びを深めてもらおうと毎年開催されています。今月の特集Ⅱでは、ＪＡ管内の入賞作品をご紹介します。

２月３日、第47回岩手県コンクールの表彰式ならびに全国表彰伝達式が盛岡市内で開かれました。管内からは、作文部門で県・教育委員会教育長賞を受賞した山田結心さん（岩手大学教育学部附属中１年）をはじめ、図画部門で全国・優秀賞（県・教育委員会教育長賞）に輝いた佐藤葵さん（盛岡市立大宮中２年）、県・優秀賞を受賞した菊池大杜さん（盛岡市立向中野小１年）が賞状を受け取りました。今年度は県内の小・中学校から計２５３点（作文１７２点、図画81点）の応募がありました。

笑味（えみ）ちゃん
©よい食P

図画部門

全国コンクール・優秀賞
岩手県コンクール・岩手県教育委員会教育長賞



「妹のおいしい笑顔」
盛岡市立大宮中学校 2年
佐藤（さとう） 葵（あおい）さん

岩手県コンクール・優秀賞

「おにぎりといもうと」
盛岡市立向中野小学校 1年
菊池（きくち） 大杜（だいと）さん

作文部門

岩手県コンクール・岩手県教育委員会教育長賞

「会えなくなった一粒」

岩手大学教育学部附属中学校　1年　山田（やまだ）　結心（ゆい）さん

いつものスーパーに行く。スーパーには様々な県産の様々な品種の米が売られている。

「今日はどのお米にしようか？」

母と色々見ながら買うお米を選ぶ――。

それには理由があった。

私の父方の祖父は米農家だった。私が離乳食で初めて食べたお米のお粥も、祖父の米から作ったものだ。

春には種蒔き、秋には収穫をする。祖母はその間に野菜を育て、春は木に穴をあけ、なめこの菌をトンカチで植えた。祖母は遊びに行く度に、五キロの米袋に入った米をくれた。我が家は毎日、祖父の作った米が主食だった。

「じじが頑張って作った米だから残さず食べてくれると嬉しいな。」

祖母がいつも言っていた。妹や弟の離乳食の時は祖父が自ら離乳食をあげ嬉しそうに

「うまいか？」

と聞いていた姿を思い出す。

月日が流れ、父と母は離婚した。しかし祖父母とは連絡を取り合っていたので、祖母の作った野菜が出来ると一緒に米を送ってくれ、弟がアレルギーで給食ではないと分かると、その米の量が五キロから十キロに増えた。配送の人が

「重いですよ。」

という位、重く、段ボールにぎゅうぎゅうに詰めて送ってくれた。

コロナ禍になり、祖父母とはなかなか会えなくなった。そんな中で、弟のランドセルを買う約束をしているから、と待ち合わせをして祖父母と会った。ランドセルを背負った弟と祖父母の写真をたくさん撮っていた。

その日からしばらくして、米十キロと野菜やお菓子が届いた。

「はるちゃん一年生がんばれ」

と祖父の字で手紙が入っていた。

それが最後の祖父の米となった。

一月、私は周りには言わず中学受験をし、合格したので、姉が行った学区の学校には行かない事を電話で報告した。その時祖母が

「じじ、一昨日救急車で運ばれてよ、入院してるから、ちゃんと報告しとくからな。頑張れ。じじは心配ないから。」

ちょっと秋田なまりの入った祖母の声に、

「わかった。」

と答えた。それから二ヶ月後、祖父は亡くなった。私の卒業式が近かったので、私がそれを聞いたのは四月の入学式を終えてからだった。

生涯をかけて米作りをした祖父。祖父の米が特Ａランクをもらった時は、自分の事のように嬉しかった。秋に遊びに行くと弟をコンバインに乗せてくれたり、ご飯を作ってくれたりした。春の種蒔き、秋の収穫時には朝から出て行き、帰るのは日が暮れる頃だった。

持病があった祖父は、初孫である姉の成人式まで生きたい、と言っていた。でもそれは叶わなかった。

祖父が入院したと聞いた時、私の家族は初めてスーパーで米を買った。祖父の米を残しておいた。

味が全然ちがうな。

色々な品種の米を買ってみたが、どれも祖父の米とは味、食感がちがった。

私が中学校に入学し、初めてお弁当を持って行く日、久しぶりに祖父の米を炊いた。

お昼にその弁当を食べた時、祖父の作った米の味、香りが口の中に広がり、鼻を抜け、私は祖父が亡くなって初めて涙が流れた。

「じじ、美味しいよ。私の制服姿見てほしかったよ。」

心の中で呟いた。心もお腹も満たされた。

今日もスーパーで、どの米を買おうか母と時間をかけて選ぶ。少しでも祖父の作った米の味に似ているものを探して…。

祖父の米は世界一。似た米は見つからない。

米穀

水稲の播種作業について

今月の担当
矢巾地域営農センター米穀課　吉田 祥生

今年は、昨年の同時期と比べ降雪量が多く、気温の低い日が続きました。播種作業に入る前に田植え日を設定し、そこから逆算して、圃場準備や播種などの作業計画を立てましょう。

苗の種類	葉齢	育苗日数	草丈(cm)	第一葉鞘長(cm)
稚　苗	2.5	20～25	12～13	3.5～4.0
中　苗	3.5	30～35	13～15	2.5～3.0
成　苗	4.5	40日以上	15～18	2.5～3.0

【表1】 健苗目標

【種子準備】

今年の種子は昨年と同様に消毒済み種子が配布されますが、品種によっては無消毒種子が配布となりますので、その際は必ず消毒しましょう。作業を始める前に種子の品種や数量を確認してから、種もみネットに小分け作業を行いましょう。

【浸種作業】

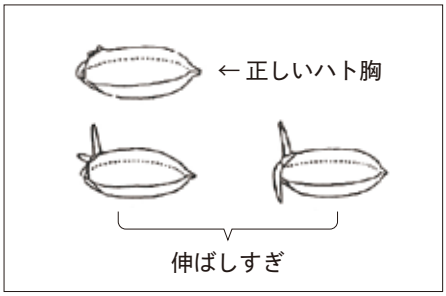
種もみの吸水不足は出芽不良の原因となるため、種もみが十分に隠れるくらい水を確保しましょう。また、水温が10℃未満での浸種は、出芽不揃いの原因となりますので、適正な水温で浸種を行いましょう。水の交換は2～3日ごとに行い酸素を補給します。また、交換時は種もみの位置を上下入れ替えるようにしましょう。

	水　温	日　数	積算温度
うるち品種	12～15℃	10～8日	120℃
もち品種	12～15℃	9～7日	100℃

【表2】 浸種に適した水温と日数

【催芽作業】

催芽は、ハト胸程度とし、28～30℃で行いましょう。



【図1】催芽確認の目安

細菌病対策のため、温度は30℃以下を厳守しましょう。また、浴槽を使った催芽は細菌病の発生原因となりますので行わないようにしてください。

【播種作業】

厚まきは軟弱徒長苗となり、病気の発生や苗の老化を招きます。適正播種量を守り厚まきにならないようにしましょう。

	稚　苗			中　苗	
乾　籾	180g	160g	140g	120g	100g
催芽籾	225g	200g	175g	150g	125g

乾籾で1箱 100g～120g →催芽籾で 125g～150g

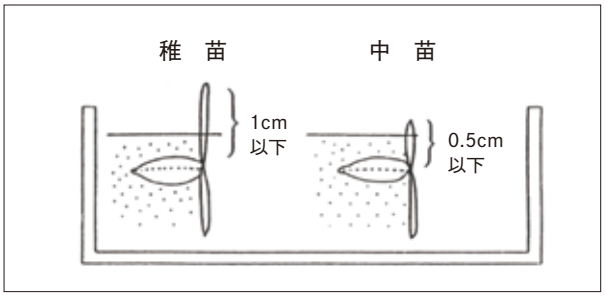
【表3】 1箱あたりの適正播種量

品種によって種もみの粒の大きさが違うので、作業前に播種量の確認を行いましょう。

【出芽作業】

出芽は28～30℃での加温出芽が基本です。無加温出芽を行う場合は、温度確保に十分注意し、温度確保ができる保温被覆資材を使用しましょう。

また、出芽長で苗質が決まります。長すぎると徒長しやすくなるため出芽長は稚苗1cm以下、中苗で0.5cm以下としましょう。



【図2】出芽長

春期営農生活座談会

ＪＡは2月16日～22日の期間、管内31会場で令和5年春期営農生活座談会を行い、４６８人の組合員が出席しました。ＪＡ担当者らが令和5年産稲作基本方針などについて説明し、出席された組合員の皆さまから貴重なご意見を頂きました。

座談会でいただいたご意見や質疑応答の一部をご紹介します。

Q 「銀河のしずく」は徒長しやすいとのことだが、浸種、種まきなど遅らせた方が良いか。

A 遅くする必要はなく、5月15日頃の田植えを基準に作業計画を立て、田植え日から逆算し、浸種・播種日を決めてください。

Q 今年から「銀河のしずく」に取り組む田での、漏生イネ対策として初期除草剤を使用することとあるが、薬剤注文を忘れている人もいると思うので、声掛けが必要ではないか。

A 漏生イネによるコンタミが懸念されるため、確実に除草剤を使用していただきたいと思います。１回目の指導会などで呼び掛けてまいります。

Q 「銀河のしずく」のタンパク値はどのように確認するのか。

A リモートセンシング技術を利用した衛星画像により、収穫前の8月下旬から9月上旬に判断します。また、場合によっては出荷時にサンプルをいただいて確認します。

Q ＪＡとして肥料高騰の対策は何かあるか。

A 予約注文で購入した令和４年秋肥と令和５年春肥に対して、窒素、リン酸、カリを含むもので値上がりした肥料を対象とし、購入額の７％を助成することとしています。

子牛市場情報（令和5年2月16日･中央家畜市場）

	地　区	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重	前月比
雌	紫　波	16	691,000	184,000	491,500	292	-17,033
	矢　巾	7	603,000	301,000	452,143	295	-31,571
	盛　岡	7	670,000	360,000	530,143	294	-24,000
	ＪＡ計	30	691,000	184,000	491,333	293	-22,219
	市場計	112	738,000	184,000	466,500	286	-48,219

	地　区	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重	前月比
去勢	紫　波	24	747,000	352,000	575,833	324	-10,732
	矢　巾	3	568,000	428,000	480,667	298	-103,333
	盛　岡	8	705,000	561,000	638,250	328	-950
	ＪＡ計	35	747,000	352,000	581,943	323	-11,111
	市場計	139	867,000	261,000	568,086	322	-15,324

ファーマーズマーケット通信
来て！見て！のぞいて！

FARMER'S MARKET NEWS

Vol.06

紫波町の河東、国道456号沿いに店舗を構える「産直センター大巻」は、新鮮で安心・安全な農産物をお手頃価格で提供する、地域の生産者がつなぐ産直です。

今年、開店25周年を迎えた同産直は、土日と祝日のみの営業が特徴。事務局の阿部さんは「この地域で採れた農産物を新鮮な状態で味わってほしい」とこだわりを話します。35人の組合員が手掛ける商品は、季節の野菜や紫波町特産のリンゴ・ブドウなどの果樹をメインに、加工品も人気。大福や漬物、産直限定のパンをはじめ、「ござ」を使った加工品や地域伝統のほうき、ドライフラワーやひな人形などの可愛らしい手芸品まで揃います。

また、同産直では「夏まつり」や「感謝祭」など季節ごとにイベントを開催。購入金額に応じたくじ引きなど様々な企画で来店客を楽しませています。阿部さんは「生産者は高齢化していますが、地域を盛り上げていけるように皆で知恵を出し合っていきたい」と話し、会計を担当する作山さんも「『自分で作ったものを出したい』という方がいたら、気軽に声を掛けてほしい」と期待を込めます。「店頭に立ってお客さんとお話するのが楽しみ」と話すお二人は「地元の新鮮な野菜をたくさん用意してお待ちしています」と笑顔を見せています。

オススメ商品

焼きいも

毎年11月から翌年3月末までの冬季限定で販売している焼き芋。その甘さとねっとり食感が人気の焼き芋は「紅はるか」と「紅あずま」の2品種から選ぶことができ、事前予約も可能です

今回ご紹介する産直

紫波町・大巻

産直センター 大巻

〒028-3314 紫波町大巻桜田29-1
☎ 019-672-1144

【営業時間】土・日・祝日
8:30～18:00(3月～11月)

サン・フレッシュ都南さ

おでってくなんせ！

店内では
アサツキやイチゴなど
春の味覚も
揃ってきましたよ！

小枝店長

サン・フレッシュ都南

住　所　〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡21-180
TEL　019-637-6801
営業時間　9:00～18:00

Twitter

今月は 春彼岸

サン・フレッシュ都南では3月16日から21日の6日間、春彼岸セールを開催します。期間中は、切り花をはじめ、お供え物にぴったりなお団子や大福などのお菓子類も豊富に取り揃えています。特に、生産者の皆さんが丹精込めて育てた切り花は、その持ちの良さと新鮮さが好評をいただいておりますので、彼岸の準備はぜひ当店をご利用ください。

イベント情報

最新情報はホームページやSNSをご覧ください

春彼岸セール　3月16日(木)～21日(火)

まちのスマイル Vol.17

盛岡市・三本柳

右 藤澤（ふじさわ） 達彦（たつひこ）さん(40)　左 好子（よしこ）さん(44)

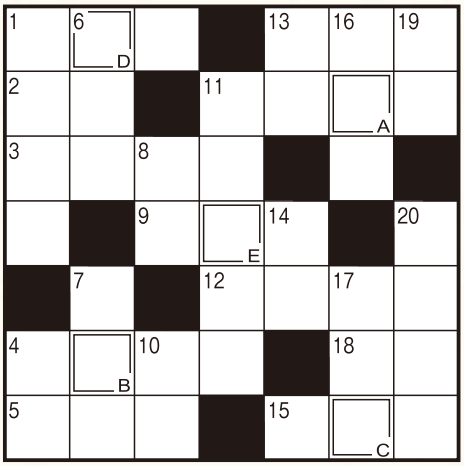
ネギやレタスなどの栽培に励む藤澤家。「気候などの環境変化もあり、年々栽培の難しさを感じます」と話す達彦さんは、他地域のデータや取り組みを調べながら栽培に役立てているといい「上手くいったときは嬉しいです」とやりがいをみせます。ともに作業する好子さんも「家族で協力しながらできているのがありがたいですね」と感謝を話します。

小学生と中学生の4人の子を持つ親でもあるお二人。「子どもたちの成長が楽しみ」と話しながら「この先も農業を頑張っていくためにも、家族みんな健康で過ごしていきたいです」と笑顔を見せています。

CROSSWORD

クロスワード

二重マスの文字をA～Eの順に
並べてできる言葉は何でしょうか？



応募方法 郵便はがきにクイズの答え・郵便番号・住所・氏名・年齢、今月のテーマにまつわる話・誌面の感想をご記入の上、下記宛にお送りください。正解者の中から抽選で、JAやサン・フレッシュ都南で使える「農協全国商品券500円分」を5名様にプレゼント！

今月のテーマ ときめき　応募締切 3月29日 必着

送り先 〒028-3453 紫波町土舘字沖田98-20
JAいわて中央
「JAんぷ3月号お楽しみクイズ」係

ホームページ 広報誌応募フォームにて受付 ▶

E-mail kouhou3244@ja-iwatechuoh.jp

＼コチラから／

※ご記入いただいた個人情報は、お便りコーナーへの掲載、並びにプレゼントの発送にのみ使用いたします。
当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

2月号の答え
「ユキオロシ」

➡ヨコのカギ

① 暑さ寒さも――まで
② 佐渡、淡路、隠岐といえば
③ 多くの受験生が解くもの
④ 数字ではxやyで表すことが多い
⑤ ツクシはこの植物の胞子茎です
⑨ 飛行機が飛び立つこと
⑪ 薄く切ったもの。――チーズ
⑫ 山下公園や中華街があります
⑬ 卒業式で『――の光』を歌った
⑮ イルカのヒット曲『――雪』
⑱ 衣服に付いている、洗濯表示などが載っている部分

⬇タテのカギ

① ひな人形に供える餅
④ 入試のときはケアレス――に気を付けて
⑥ ぐっと辛抱すること
⑦ ウドの生産量が日本一の、北関東にある県
⑧ 跳ね上げたひげが特徴的なスペインの画家
⑩ 石が細かく砕けたもの
⑪ 雪解けで川の――が増えた
⑬ つくのはうそ、吹くのは
⑭ 中華がゆなどにのせる赤い実
⑯ スタッドレスからノーマルに替えようかな
⑰ 宿屋のこと。漢字では旅籠と書きます
⑲ 出かけていて誰もいません
⑳ ひな祭りのうしお汁によく使われる貝

テーマ 地元のここが好き！

皆様からのお便りをご紹介します！

たくさんの保育園児の華やかな制服姿で地域の道路を散策する風景が、何にも言いがたい清々しさを感じます。春になるとこの風景に出会うことができ、とても好きです。
（室岡・S／80歳）

私も春に管内を車で走っているとお花見をしている姿をよく見かけますが、可愛らしくて癒されます☺

私の地元はお店もなく、小学校も閉校になりとても寂しいですが、大自然の中でとても静かでのどかなところが大好きです。年を重ねるごとにますます地元が好きになりました。だいぶ不便ではありますが、それもまた好きなところです。
（片寄・T／58歳）

自然の風景は何にも代えがたい地域の財産ですね。

美味しい野菜や果物が手頃にたくさん食べられる贅沢は都会では味わえない。東京と神戸で40年暮らして盛岡に住んでいる者の実感です。
（盛岡駅前北通・O／70歳）

暮らしていると当たり前に感じてしまいがちですが、改めて地元の食材を食べられることに感謝したいものです。

幣掛の滝は夏に行っても冬に行っても風情があって良いところだと思います。
（又兵エ新田・H／74歳）

四季を通じて楽しめるのは素敵ですね。ゆっくり訪れてみたいものです！

理事会報告

2月定例理事会が2月27日、紫波支所で開かれ次の議案について決議されました。

【議決事項】
1 内部監査規程の一部改正
2 令和5年度内部監査計画
3 令和6年度職員の採用方針
4 令和5年度職員（社会人採用）の採用方針
5 令和5年度内部統制システム基本方針
6 令和5年度販売手数料率等の設定
7 令和5年度購買品供給手数料率の設定
8 令和5年度余裕金運用方針
9 令和5年度借入金の最高限度額の設定
10 令和4年度減損会計における資産のグルーピング
11 組合員の出資減口
12 参事の選任

退職者

令和5年2月をもって、次の方が退職されました。

多面的機能・食料安全保障強化に向けて要請を実施

代表理事組合長 浅沼 清一

JAいわてグループは2月9日、野村哲郎農林水産大臣に「中山間地域における持続可能な農業実現にかかる要請」と題して、中山間地域の農業を振興し、多面的機能や食料安全保障の強化が図られるよう要請を行いました。

その背景として、わが国では「食料・農業・農村基本計画」において、令和12年度までに、カロリーベース総合食料自給率を45%に高める目標を掲げているものの、令和3年度の食料自給率は38%と自給率向上の兆しは未だ見えない状況にあります。

また、わが国の重要な財産である農地については、毎年約2万haずつ減少しており、特にも中山間地域が農業産出額の8割を占める岩手県においては、近年、耕作放棄地面積率が全国平均よりも上回っている状況にあります。

一方、人口減少や高齢化が深刻化するなかで、従来の担い手だけで農地や農業生産を維持することが困難となっていることから、中小・家族経営など多様な経営体の役割が見直されています。

具体的な要請内容は、「現状の支援措置では、耕作放棄地の増大や農業従事者の不足に歯止めがかからない状況にあることから、地域の若者はもとより、地域外からの新たな担い手も含め、中山間地域への定住に結び付く魅力ある支援策を講じること」としています。

INFORMATION

販売受付中！

まごころギュ〜ッとセット春

内容
- ・国産の旨いそば
- ・「銀河のしずく」パックご飯
- ・りんごジュースパウチ
- ・岩手県産冬恋りんごグミ
- ・炊飯器で本格おこわ とり五目
- ・レトルトカレー
- ・南部せんべい（8枚セット）
- ・岩手県産山葡萄グミ

価格 1セット 3,000円（税込）
※送料は別途いただきます。ご自宅（当JA管内）へは無料配達いたします

申込締切 令和5年3月22日（水）※4月中旬より順次発送・配達予定です

お申し込み・お問い合わせ 生活推進部生活推進課 ☎673-7469

＼ マイナビでエントリー受付中！ ／

令和6年度JAいわて中央新採用職員募集のお知らせ

応募資格 大学・短大・専門学校卒業見込者
（既卒者・卒業後概ね2年以内応募可）

採用時期 令和6年4月1日
詳しくはマイナビ2024をご覧ください

JAいわてグループ合同職場説明会開催！

【日 時】 令和5年4月4日（火）13:00〜14:30（受付12:30〜）
【場 所】 アイーナ（いわて県民情報交流センター）会議室804A
【対 象】 令和6年4月採用を希望する方
【その他】 コミュニケーションカードをJAのホームページよりダウンロードし記入のうえ、当日持参してください（会場にも用意します）
【参加JA】 JA新いわて・JAいわて中央・JAいわて花巻
JA岩手ふるさと・JAいわて平泉

※新型コロナウイルス感染症の状況により、中止とさせていただく場合がございます。開催については、JAのホームページよりご確認ください。

お問い合わせ 企画管理部人事教育課 ☎673-7481

今後のご健勝とご活躍を祈念いたします。（ ）は前所属。

- ◆菅原 弘晃（企画管理部付休職）
- ◆村上 祥子（金融部資金課）
- ◆山岸 広美（紫波支所共済課LA）
- ◆福島 渓太（営農販売部紫波地域営農センター園芸特産課）
- ◆田端 康生（営農販売部紫波地域営農センター園芸特産課）
- ◆鈴木 和明（営農販売部矢巾地域営農センター園芸特産課）

ほっぷ すてっぷ じゃ JAんぷ
Vol.289 令和5年3月1日発行
ホームページ https://www.ja-iwatechuoh.or.jp/

新鮮食材で
楽しくクッキング
— This month's recipe —
今月のレシピ
143杯目

みんなのよい食プロジェクト
食は日本の未来。
JAいわてグループ

ウルイのサラダ

材料（２人分）

ウルイ	120g
ミニトマト	2個
【漬けだし汁】	
かつおだし	150ml
薄口しょうゆ	10ml
みりん	10ml
塩	少々
オリーブ油（エクストラバージン）	適宜
ミモレット	適宜

作り方

1. ウルイは元、中、先で3等分にする。ミニトマトは湯むきをしておく
2. 漬けだし汁の材料を鍋で沸かし、冷ましておく
3. 鍋に湯を沸かし1のウルイをゆで※、冷水に落とし、水気を切っておく　※ウルイは元、中、先でゆでる時間を変える
4. 3と湯むきした1のミニトマトを、2に2時間ほど漬けておく
5. 器に4を盛り付け、漬けだし汁を流し、上からオリーブ油、すりおろしたミモレットを順にかけて出来上がり

編集後記

渡邊

家族農業や雇用就農、グループ活動など、それぞれの立場で農業への思いをお話して下さった女性農業者の皆さん。時にはその苦労を語りながらも、子育てや趣味、地域活動など、農業以外のことにも全力で取り組むその姿に、同じ女性としてもたくさんのパワーと良い刺激をもらった取材でした。

佐々木

日々の取材を通じて、女性の皆さんの知恵や技、経験に刺激を受ける機会が多くあります。今後も女性の活躍を推進していくためには、性別だけに捉われず、誰もが能力を発揮できる環境づくりが大切です。「農山漁村女性の日」を契機に、皆さん一人ひとりの活躍を後押しする広報誌をお届けしていきたいと思います。

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C103798
この冊子は地球にやさしいベジタブルオイルインキを使用しています。
VEGETABLE OIL INK
発行／岩手中央農業協同組合　〒028-3453 岩手県紫波郡紫波町土舘字沖田98-20
編集／企画管理部企画課 ☎(019)673-7480　印刷／川嶋印刷株式会社

最新の情報はSNSやHPをご覧ください
Twitter @ja_iwatechuoh
Facebook @ja.iwatechuoh
instagram @ja_iwatechuoh
YouTube
HP